

3 経営基盤の強化 (3) 継続的な改善

成果指標（KPI）
⑥収益的収支の比率

100%以上

① 業務効率化・経費削減

厳しい経営環境が続く中、サービスの質を維持・向上させつつ、財務体質を強化するために、徹底した業務効率化と経費削減に取り組みます。

AIを積極的に活用する等、日々の業務プロセスを見直し、無駄を排除することで、業務時間の短縮と生産性の向上を図るとともに、燃料費、修繕費、消耗品費、光熱水費など、全ての経費項目において、コスト意識を徹底します。各部署が節減努力を継続することで、組織全体で恒常的な経費削減に取り組みます。

環境負荷低減とコスト削減を両立させるため、エコドライブを全運転者に徹底します。急加速・急ブレーキの抑制、アイドリングストップの励行など、燃料効率の改善効果が高い運転技術を継続的に指導・推進することで、燃料費の削減と排気ガスの抑制に貢献します。

② 交通局全職員の経営改善意識の共有

経営を取り巻く厳しい状況と、その改善に向けた具体的な方策について、交通局の全ての職員（運転者、整備士、運行管理者、事務職員等）が共通認識を持ち、一体となって事業経営に参画する意識を醸成し、計画を着実に推進していきます。

定期的に経営状況に関する情報を基に収益や費用の内訳、改善目標などを全職員に分かりやすく共有します。これにより、個々の業務が経営にどう影響するかを理解し、当事者意識を高めます。

定期的な研修会等を実施し、経営意識の重要性やコスト削減、業務効率化について共有します。また、部署間の連携を強化し、双方向のコミュニケーションを活発化させることで、職員一人ひとりが「交通局をより良くする」という共通の目標に向かって協力できる組織文化を育みます。

③ 経営状況の「見える化」

毎年、前年度の系統ごとの「1便当たりの利用者数（人）」、「営業係数」を公表することにより、系統ごとの収支状況の「見える化」を行います。

※営業係数：100円の収入を得るためにかかる費用のこと。

100未満なら黒字、100を超える場合は赤字。

